

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4570200917		
法人名	医療法人 誠心会		
事業所名	グループホーム小松原	ユニット名	1号館
所在地	宮崎県都城市小松原町1161-3		
自己評価作成日	平成30年8月20日	評価結果市町村受理日	平成30年11月9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaiyokensaku.mhlw.go.jp/45/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&JigyosyoCd=4570200917-00&PrefCd=45&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階		
訪問調査日	平成30年9月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

旬の食材を取り入れた馴染みのある、家庭的な味の献立になっている為、利用者様に「美味しい！」と好評を得ており、完食率も高い。また、職員も同じ物を同じ時間に、同じテーブルを囲んで一緒に食す為、和やかな雰囲気の中での食事時間を持つ事ができている。職員間で冗談を言い合ったり、笑い合う姿も多く見られ、事業所内を明るく温かな雰囲気に保つ事で、利用者様の安心感へ繋げられる様努めている。医療機関が併設している為、利用者様の体調不良時や緊急時には、適切な医療が受けられ安心して生活を送る事ができる。毎日レクリエーションの時間も設けており、慣れ親しんだ歌を歌ったり、手踊りをしたり、立ち上がって踊ったりと利用者様がそれぞれ、可能な形で参加しており、楽しみながら機能維持へ繋げ、出来る事は自分で行ってもらいながら、長期的に自立した生活が送れる様に支援している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

運営母体の医療機関の敷地内にホームはあり、ほとんどの利用者がかかりつけ医としている為、情報共有が図れ心身の状態を管理している。利用者の身体状況を考慮し敷地内を散歩するなど少しでも外の空気に触れるよう努めている。食事は献立、買い物から調理まで職員が行っており、利用者と職員がテーブルを囲んで家庭的な雰囲気の中で食事を楽しめるよう努めている。利用者に寄り添い真摯にケアに取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	1号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	実践しやすい、具体的な内容の理念となっており、ホールや事務所に掲げる事で、都度意識できる様にしている。		理念を定め掲示しているが定期的な見直しや職員全員が理念を共有・理解するまでにはなっていない。	利用者の状態に沿った理念の見直しや理念を職員全員で共有し実践する為の取組に期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的なつながりは持てずにいるが、地域の催事には作品を出したり、参加する事で交流を持ち続けられる様努めている。		地域の文化祭へ出品したり祭りに灯籠を奉納したり、近所の交番や会社・事務所など定期的に挨拶に行きホームを紹介するなど少しでも地域との付き合いが出来るように努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議等に地域の方が来苑する機会に、認知症への理解を深めて頂き、ユマニチュードの技法や、日常で職員が発見した交流の楽しさを紹介する事で、周囲の方が、認知症の方と共に楽しみながら過ごす事の大切さを伝えられる様努めている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎回活動報告をし、それに対する意見をもらう事ができている。今後もそれを十分に活かせる様努めていきたい。		ホームの活動報告や行事のお知らせなど意見交換を行っている。出された意見を検討し地区の消防団と連絡・連携を図るよう取り組んでいる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	必要に応じて相談、報告をしており、協力を仰いでいる。		運営推進会議に出席する市の担当者とは顔なじみの関係であり、些細な事で尋ねられるような協力関係が築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関するマニュアルを作り、研修への参加、研修報告を通じて職員間で周知しており、安易な拘束へ繋がらない様努めている。		マニュアルの整備に加え外部研修への参加や復命での勉強会の実施など身体拘束の理解に努めている。さらに言葉による拘束の弊害も理解に努めケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に関するマニュアルの設置と周知をしており、特に言葉や態度での、精神的な虐待に注意を払い、防止できる様互いに努めている。			

自己	外部	項 目	自己評価	1号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今後勉強する機会を設け、必要時にスムーズに活用できる様にしていきたい。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	文書と対面での説明を行っており、しっかり納得、同意をもらった上で、全てのサービスを実施している。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者、ご家族、職員間で情報を共有し、コミュニケーションを密に取る事で、気軽に意見、要望を伝えて下さっており、それを活かせる様努めている。		運営推進会議での家族意見の聴取や面会時に職員が気軽な会話をし、言いやすい雰囲気作りに努め意見の把握に取り組んでいる。意見や提案は職員で検討し実践するよう努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者が普段より談笑を交えて、職員と密なコミュニケーションを取っている事で、常に意見が出しやすい状態であり、それを反映できる様努めている。		管理者は、職員からの意見や提案が言いやすい雰囲気作りに努めている。実際、提案に基づき浴室の手すりを増設置するなどケアに反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者と職員の間壁がなく、普段よりよく話をする事で、現状を把握し、職場環境をより良くできる様努めている。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実践と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修への参加を進めており、希望時はできる限り受講できるようにする等、職員のスキルアップを支援している。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現在積極的な交流は持てておらず、今後、ネットワーク作りに努め、サービスへ反映させていきたいと考えている。			

自己	外部	項 目	自己評価	1号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の意見、要望を穏やかな対話の中で引き出し、共に考え、方針を立てていく事で、ご本人にとって職員が、気軽に話を聞いてくれる存在になれる様努めている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人とご家族の意見、要望を互いに納得できる形まですり合わせ、よく話を聞く事で、ご家族にとっても職員が、気軽に相談できる存在である様努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	意見、要望、現状、今後の展開を十分に考慮した上で、現状に即したサービスの提供を心掛けている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者は知識、知恵を受け、職員はそれを体現する等いつまでも、お互いに必要とし、必要とされる事を実感して過ごせる様努めている。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の来苑時に、日頃の状態を伝えると共に、職員しか知らない一面や、ご家族しか知らない一面を雑談の中で、互いに情報交換する事で、協力関係を築き、新たな発見や、ご本人とのコミュニケーションの楽しみへ繋げられる様努めている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	できる限りの支援をする準備はしているが、互いに高齢になり、友人や知人との手紙や電話等での交流は途絶えている。ウクレレの演奏会が恒例になっており、ホーム内の開催ではあるが、馴染みの場となっている。		利用料は家族持参が基本で毎月、ほぼ利用者全員に家族の面会が定期的に継続出来ている。馴染みの美容室に依頼し訪問散髪してもらったり、墓参りに連れていくなど関係継続に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	できるだけご利用者間のコミュニケーションが保てる様、職員が仲介をしながら支援している。ご利用者間のコミュニケーションを、多くは望まれない方も増えてきてはいるが、食事を一緒に摂っている為、仲間意識はある様子で、何となく気に掛けている場合はさりげない仲介をする様努めている。			

自己	外部	項 目	自己評価	1号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて、退所後の相談、支援を行う準備はある。転居先の関係者への情報提供の中では特に、職員が携わってきた事で得たご本人の喜ぶ事や、不快に感じる事等、気持ちに寄り添い、共に人生を楽しむ為の情報に重きを置いている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の普段の様子を十分に観察し、言葉で語られる以外の意見や要望を拾い上げ、ご家族の意見、要望を踏まえた上で、ご本人の意思にできるだけ近付けた方針を立てられる様努めている。		本人や家族からの聞き取りや、日々の利用者の状態・言動・表情を汲み取り、ケース記録に詳細に記録し、思いや意向の把握に努めている。ケース記録の内容により介護計画に反映している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人の話をたまに年表にしてみたり、友人の名を書き留めてみたりしながら、日常の中で、これまでの暮らしの情報を得られる機会を逃さない様、注意して見聞きしている。また、ご家族からの情報も得られる様、面会時談笑する時間を取る様努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日頃からご本人に寄り添い、見守り、傾聴する事で、現状をしっかりと把握し、ご本人の意思を引き出せる様努めている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族、職員、主治医等、それぞれの立場からの意見を交換しすり合わせる事で、現状に即した多彩で、個々の特色のある計画になる様努めている。		担当職員の評価や計画作成者による3ヶ月に1回のモニタリング、本人や家族の意見や希望を考慮し介護計画を作成している。定期的な見直し及び状態変化時は臨機に現状に即した計画の変更を行っている。	担当者会議への家族の出席を促し、本人・家族とホーム間の、介護目標やサービス内容(ケア等)での認識・情報共有が更に進む事に期待する。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々個別の記録を残し、毎月会議での意見交換や、日々の記録のモニタリングをする事で、情報を共有し活用している。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	必要に応じて臨機応変に対応できる様、都度考慮、見直しを図っている。			

自己	外部	項 目	自己評価	1号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご本人の状態をしっかり把握する事で、残存機能を十分に発揮し、地域の一員として、文化祭等へ作品を出品し、地域の方から称賛の声を頂く事もあり、地域との繋がりを感じながら、楽しむ事が出来る様支援している。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人、ご家族の希望するかかりつけ医での受診を推奨し、積極的に連絡を取りながら、都度対応している。		かかりつけ医の選択は自由である。協力医療機関へは職員が付添い受診を行い、日頃の状態など詳細に伝えている。家族の付き添いでの受診の場合は情報書を作成し医療機関へ提供する等、適切な医療を受けられるように努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々看護師や、医師への報告はこまめに行い、必要時、迅速に対応できる様努めている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院の際には、ご本人が安心して過ごせる様、できる限りの情報を提供し合い、必要に応じて連絡を取っている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	原則として看取りケアをしない方針ではあるが、ご本人やご家族の意向を重視し、実践している。状態の変化等でこまめに連絡を取り、都度方針を見直し、更新しながら取り組んでいる。		看取りは行わない方針であったが本人や家族の希望などでホームでの看取りを行っている。現状に即した指針の作成や家族などへの説明、同意を得る事が出来ておらず方針の共有が出来ていない。	重度化や看取りの方針を定めて、入居時やその他の機会に本人や家族への説明及び同意を得るような取り組みに期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルの設置や、勉強会の機会は設けた事があるが、訓練は行っておらず、今後実施したいと考えている。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を実施している。災害時には、地域の消防団の方への協力依頼はしており、連絡体制も整えている。		水や食料の備蓄もあり、定期に避難訓練を実施し前回は運営推進会議参加者の訓練参加もあった。非常時の協力を家族に依頼すると共に地区の消防団との連絡も行い地域との協力関係も築いている。	

自己	外部	項 目	自己評価	1号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に人生の先輩としての尊敬の念を忘れずに、言葉遣いや対応に配慮している。居室への入退室時は断りの言葉を述べ、居室にて過ごされる時や、お休みの時等、ご本人が望まない限り、ドアが開けっ放しにならない様配慮している。		言葉かけに留意し馴れ馴れしい言葉にならないよう指導している。排せつなどのケア時は他の人から見えないよう工夫したり訪室時には必ず声掛けを行うよう取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の意思をできる限り尊重する様に心掛けていますが、決断が困難な場合には、日頃の反応や、意向を考慮し、アドバイスを行いながら支援している。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人の意思をできる限り尊重し、対応出来る様に心掛けています。他者とのコミュニケーションが苦手な方は、無理強いせず、居室で一人過ごす時間も大切に、趣味活動等に充てる事もできる様支援している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に地域の美容室より出張カットに来てもらい、ご利用者とも顔馴染みになっている為、皆様安心して散髪に臨んでいる。自身で洋服を選ぶ事が困難になった場合も、以前の着こなしを参考に、ご本人の好みに合わせられる様配慮している。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は職員も同じテーブルを囲みながら、同じ物を摂る事で、家庭的な温かい雰囲気を持っている。年々参加者は減っているものの、野菜の皮むきをしてもらったり、職員が手を取り、一緒にテーブルを拭いたりしてもらっている。		献立から食材の買物、調理も職員が行い利用者も下処理や台拭きなど手伝う事もある。利用者と職員と一緒にテーブルを囲んで会話をしながら食事を楽しめるよう取り組んでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体重の変化等に応じ、食事量を調整している。飲み物も黒糖湯やジュース等、個々の好みに合わせ種類や温度等も様々な物を準備できる様にしている。栄養面を考慮し、好む方には甘酒を毎日飲んでもらっている。毎食手作りの為、好みに応じて味付けを変化させたり、食材によって形態を変える等の配慮もできる。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアティッシュやジェル等も使用し、毎食後居室にて、個々に適した形での口腔ケアを実施している。夜間帯は義歯洗浄剤を使用、コップ等のケアに必要な用具も毎日洗浄、定期的に消毒する等、清潔に保ち、口腔内の清潔保持に努めている。			

自己	外部	項 目	自己評価	1号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	時間毎の声掛けや、ご本人の様子を見ながら、トイレへの誘導を行っている。夜間帯はオムツを利用している方も、日中はハビリパンツへ履き替え、できる限りトイレでの排泄が出来る様支援している。		排せつチェック表(尿量もチェック)を活用して日中トイレ誘導を行っている。取組によりハビリパンツから布パンツ・尿取パットへ改善した利用者もあり、自立に向けた支援に取組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝、起床時には、牛乳入りの甘酒を飲んで頂いたり、日中も水分を多く摂取できる様にしたり、献立に多くの野菜を取り入れる等して、予防に努めている。排便状態を毎日チェックし、都度主治医へ相談している。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	各居室に浴室があり、湯加減や湯船に浸かる時間、入浴剤の投入等、体調や好みに応じ調整できる。曜日やある程度の時間帯は決まっているが、居室での入浴の為、脱衣から着衣までプライバシーは保たれ易く、皆様あまり抵抗なく利用されている。		1号館は各居室に浴室があり2号館は共用の浴室で原則2日に1回は入浴を行うが必要な場合は随時入浴を行っている。入浴が楽しめるように入浴剤を個別に使用したり季節湯を行うなど入浴支援に取り組んでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	寝具はご本人の使い慣れた物を持参して頂き、定期的に洗濯し、清潔な環境で安心して休める様支援している。空調管理もこまめに行い、快適な空間になる様配慮している。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の処方箋は個人ファイルに綴じ、変更があれば必ず申し送りして周知している。併設の医療機関を主治医としている方に限っては、週1回の診察を受け、服薬による状態の変化をこまめに報告、相談している。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ホールではテレビやDVDを視聴したり、懐メロの歌本を見て口ずさんだりできる様、個々の状態を観察し、今望んでいる物に興じられる様支援している。また、新聞たたみや洗濯物たたみ等の作業へも、好意により参加される事があり、感謝すると「これ位いつでもやるよ!」とやりがいを感じている様子が伺え、継続できる様支援している。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご高齢の為、思うように外出はできなくなっているが、天候が良く、体調の良い時には苑庭の散歩や、日光浴を実施している。桜の時期には苑庭での花見を行っている。		ホームの敷地内を散歩しゆっくりと庭の草花を觀賞したり、ドライブを兼ねて花見に出かけたり、家族の支援で外食や散髪、墓参りに行かれる利用者もいる。利用者の心身の状態に注意しながら外出の機会作りに努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	1号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在ご家族の希望がある方に限り、事業所で金銭を預かり、必要物品、嗜好品等の購入に充て、出納帳への記帳、定期的にご家族に確認をしてもらっている。その他の方は都度金銭の管理人と相談し対応している。現在自身での金銭管理の要求はなく、欲しい物は職員に伝え、購入してもらう事に抵抗は見られない。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	支援する準備はあるが、ご本人に電話や手紙を書く意思が薄れており、現時点での実施はなし。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下にご利用者の写真を貼ったり、季節毎に壁面を作り替えて温かく、明るい空間になる様努めている。		共用部分の採光や温度などに気を配り不快な刺激にならないように努めている。季節の飾りやソファの配置、配席に配慮したりして利用者が居心地よく過ごせるように工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下にソファを設置し、自由に使用できる様にしている。ホールが居心地悪く感じる場合には、自らソファへ行き、傾眠している等、ゆったり過ごせる空間になっている。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	しっかりリスクマネジメントした上で、ご本人、ご家族と相談の下、仏壇やたんす等、馴染みのある物を使用してもらったり、好みの花や家族との写真等を飾る事で、明るい雰囲気を保ち、落ち着いて過ごせる空間になる様にしている。		仏壇やたんす、テーブルや椅子、人形や写真など自由に持ち込まれて利用者それぞれに特徴のある居室となっている。馴染みの物に囲まれて居心地よく過ごせるように配慮している。ベッド横に滑り止めマットが設置され転倒などリスク低減にも配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室には表札を大きく掲げており、迷う事のない様に工夫している。また、道中にソファを置く事で、2階へ上がるにも、奥の居室へ行くにも、休憩できる場になっており、職員へ「連れて行って」と援助を求める事なく、自らの足で移動する意欲が出る様にしている。			